

平成26年3月期第3四半期 連結決算

補足説明資料

2014/2/13

AISAN TECHNOLOGY CO.,LTD



補足説明資料①

平成26年3月期第3四半期 業績ハイライト

売上高：1,375百万円

(前年同期比37.1%増)

営業利益：98百万円

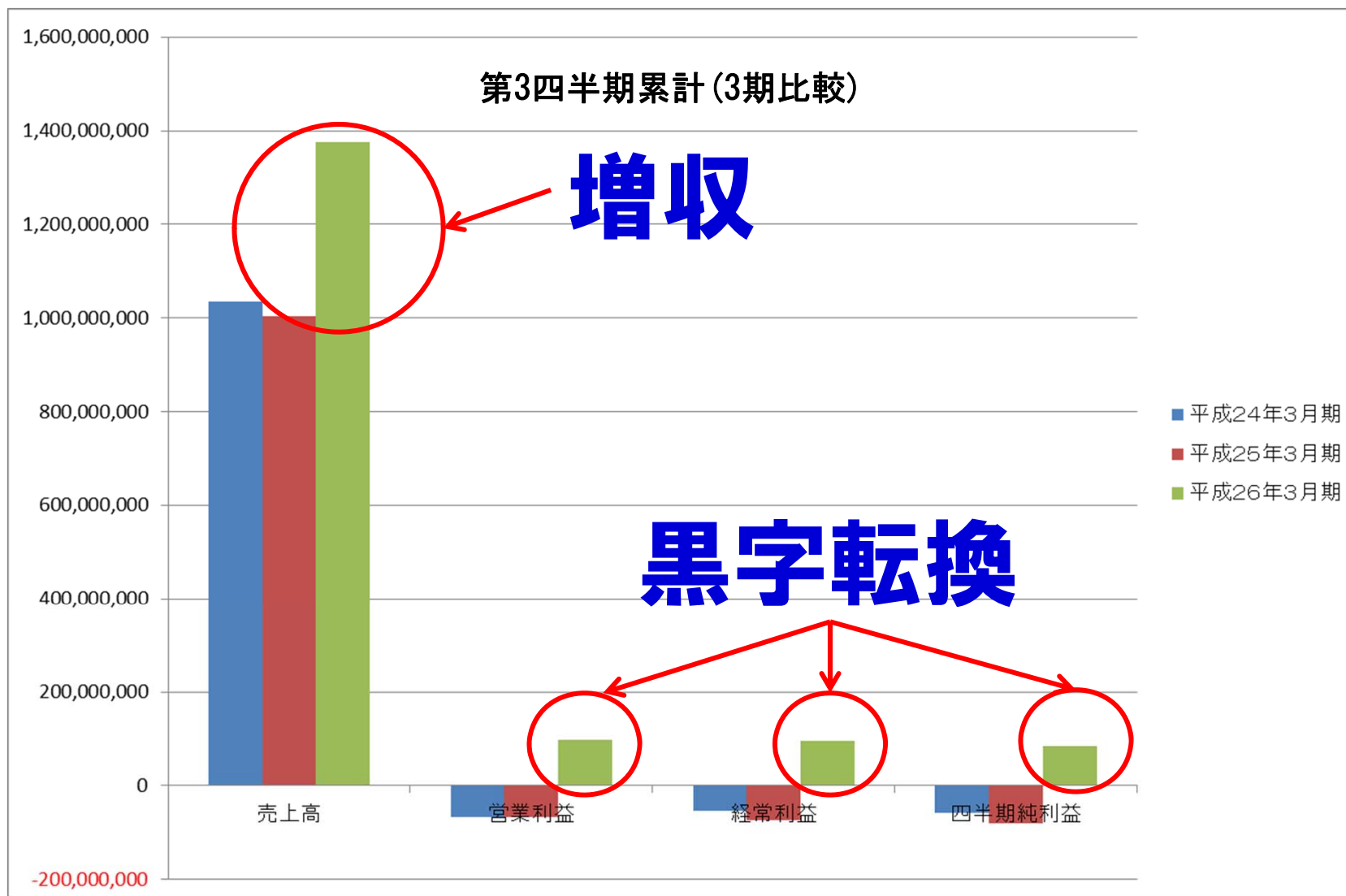
(前年同期67百万円の営業損失)

四半期純利益：84百万円

(前年同期81百万円の四半期純損失)



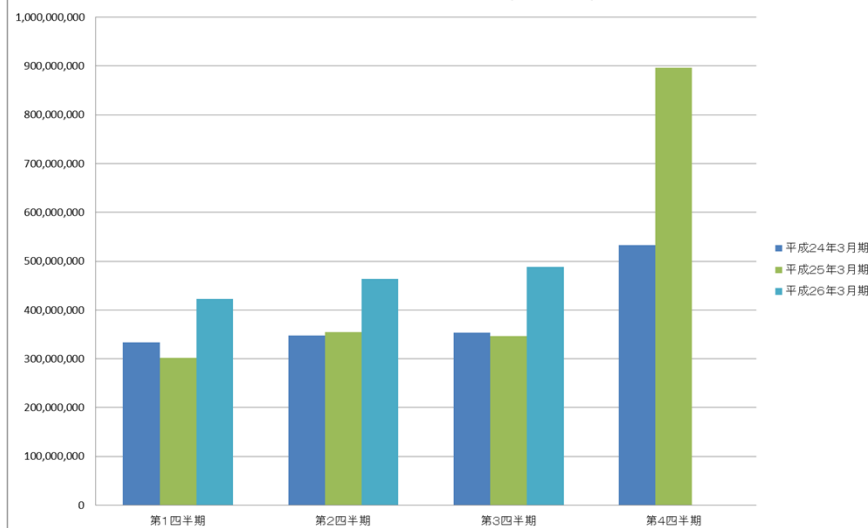
補足説明資料②



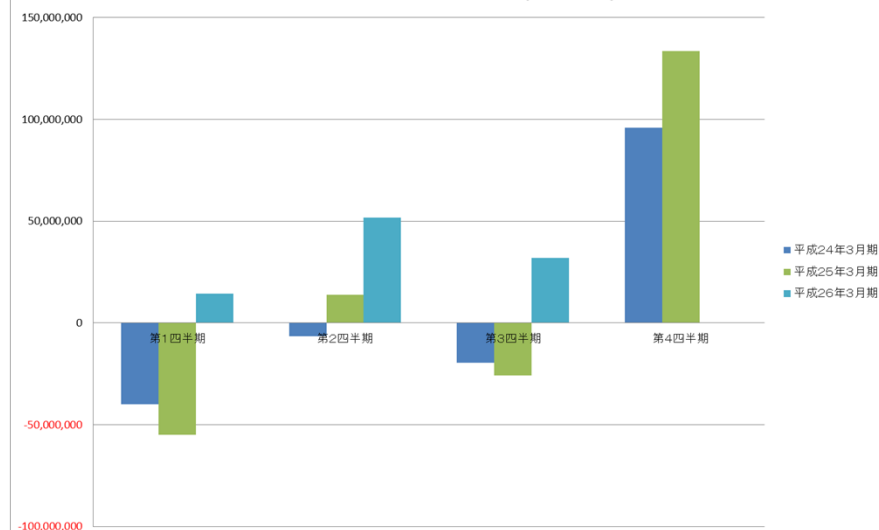


補足説明資料③

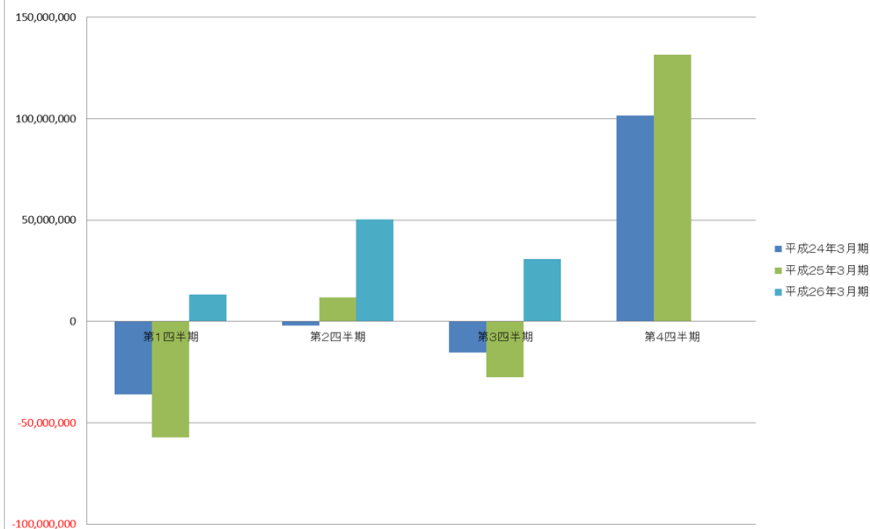
四半期会計期間売上高(3期比較)



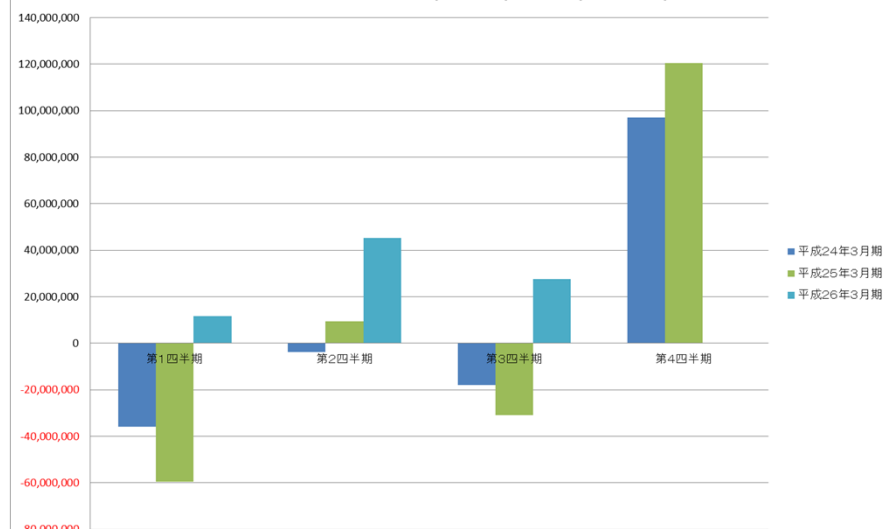
四半期会計期間営業利益(3期比較)



四半期会計期間経常利益(3期比較)



四半期会計期間当期(四半期)純利益(3期比較)





補足説明資料④

1. 売上高、利益等が前年同期実績を大きく上回った理由は

事業カテゴリー別に要因を分析すると以下の通りとなります。

【測量・測地系ソリューション事業及び計測機器販売事業】

- ①東日本大震災からの復旧・復興事業の進展に伴う測量事業の増加とともに、全国各地で進められる公共測量事業予算の執行により、測量CADシステムが測量機器販売との相乗効果で計画以上に推移しました。
- ②平成26年4月に予定されるマイクロソフトWindowsXPのサポート終了に向け、当社製品ユーザーに対し、PC機器環境変更とあわせて当社最新ソフトウェアへのアップグレードに向けた提案による売上が引き続き増加しました。
- ③平成26年4月の消費税増税を受け、お客様の購買意欲が高まったことにより、次の売上が増加しました。

【高精度三次元計測事業】

モバイルマッピングシステム（以下、MMS）導入後、数年間培ってきたMMSより取得される高精度の3次元情報と、解析、表示技術に高い評価をいただいた結果、以下に記載の業務を多くの企業から受託し、売上高・利益・受注件数ともに対前年実績を大幅に上回る結果となっております。

- ①路面調査業務等公共インフラの維持管理のための調査事業
- ②ITS分野における自動運転、安全運転支援技術の向上を図る為の高精度地図作成業務

【医療・手書き文字認識技術事業】

手書き文字認識技術を医療分野のみならず、手書きアンケートシステムとして医療以外の分野に販売するなど、収益に貢献し始めている状況であります。



補足説明資料⑤

2. MMSに関する活動の結果として、当第3四半期業績にどの程度寄与したか？

MMS計測受託売上高は前年同期比141%増の285百万円となりました。また、製造コスト全般を抑制し、売上総利益も前年同期比63%増の126百万円となりました。一方、MMS車輛販売に関しては、昨事業年度末に受注し、当事業年度に納品した案件の収益が当第3四半期累計期間の業績に寄与しております。さらには当期から全国各地で導入に向けたセミナーを実施し、複数のMMS車輛の受注もいただいている状況にあります。

3. WindowsXPのサポート終了が当社の販売活動にどのような影響を与えるのか。

また、4月以降その反動減はあるのか

現在、当社製品をご利用のお客様においても、WindowsXPをご利用されているケースが多々あります。WindowsXPの供給元のマイクロソフトがサポートを終了することによりセキュリティ更新プログラム等の供給が終了するとともに周辺機器のサポートも終了となります。以上から、当社システムを利用する環境を安心且つ安定してご利用いただくためにも早急に新しいOSへの移行が必要となり、その提案活動を積極的に行っております。また、パソコンのみではなく、製品のアップグレードや測量機とのセットでの提案も行っており、その効果も表れております。

一方で、4月以降の反動減も予想されますが、すべてのお客様がサポート終了前に移行されるものではなく、引き続き、当社システムを利用する環境を安心且つ安定してご利用いただくための提案活動も継続するとともに、最新のソフトウェアの提案によりお客様の作業効率向上を実現することで、影響を最小限に留める対策を講じます。



補足説明資料⑥

3. 連結財務諸表に関して

(1) 連結貸借対照表において前連結会計年度との比較分析

①資産の部にて現金及び預金が増加している要因は？

四半期連結貸借対照表に記載されている現金及び預金の残高は155百万円増加しております。

平成24年3月に調達した長期借入金の返済が順調に進んでいる一方で、当第3四半期会計期間において金融機関より100百万円の短期借入を実施致しました。

また前連結会計年度末に比べ受取手形及び売掛金の残高が499百万円減少、支払手形及び買掛金の残高が264百万円減少しており、前連結会計年度末時点の債権・債務の回収・支払が進んだことも影響しております。

②資産の部にて受取手形及び売掛金が、負債の部にて支払手形及び買掛金が減少している要因は？

前連結会計年度末に売上計上したMMS車両販売に係る売掛金を、当第3四半期累計期間で回収したため売掛金が減少いたしました。

またMMS車両の仕入れに係る買掛金を当第3四半期累計期間で決済したこと等により、買掛金が減少いたしました。

③資産の部における商品及び製品が増加しているが、その要因は？

平成26年4月にサポート終了となるWindowsXPパソコンの買い替え需要に伴い、パソコン等のハードウェアと共に、ソフトウェアのバージョンアップを提案する営業活動を積極的に進めてまいりました。その販売目的でパソコン等を商品として計上しており、販売高は順調に推移しております。



補足説明資料⑦

④資産の部における仕掛品が増加している要因は

四半期連結貸借対照表に記載されている当第3四半期連結会計期間の仕掛品残高は開発受託業務及びMMS計測受託業務に係るものであります。これらの業務は当連結会計年度末までに納品し、売上計上する予定であります。

⑤資産の部にける無形固定資産の「その他」が増加している要因は？

当社グループが開発したソフトウェアを計上しているソフトウェア製品勘定が減価償却等により18百万円減少している一方で、開発中であるソフトウェアのソフトウェア仮勘定が35百万円増加しております。なお、本ソフトウェアは当連結会計年度末までには完成し、リリースする予定であります。

⑥負債の部にて計上されている短期借入金の目的は？

当社グループでは、当第3四半期会計期間において金融機関より100百万円の短期借入を実施致しました。その目的は11月に支払う納税資金、12月に支払う賞与資金等であります。なお、本借入金は当連結会計年度末までに全額返済する予定であります。



補足説明資料⑧

(2) 連結損益計算書に関して

①販売費及び一般管理費が全体で増加しているがその要因は？

前第3四半期連結累計期間と比べ当第3四半期連結累計期間の販売管理費は、勘定科目別には販売促進費が23百万円、試験研究費が9百万円増加しております。

当社グループでは、測量・測地系ソリューション分野において、ソフトウェアと合わせて光波測距儀やパソコン等のハードウェアを一体として販売することにより、ワンストップオーダー体制で販売提案を進めてまいりました。本販売促進費のうち光波測距儀のレンタル費用が12百万円増加しており、営業部門でデモ用の光波測距儀を活用することにより、販売促進につながっております。

②営業外費用項目において計上された「消費税差額」は何か？

当社グループのエーティーラボ株式会社が消費税の簡易課税制度の適用を受け、消費税の差額利益が発生したものであります。

③包括利益計算書における「その他有価証券評価差額金」は何か？

当社グループが保有しているその他有価証券の評価差額によるものであります。当第3四半期連結累計期間においては、企業収益の改善とともに景気回復の足取りが感じられる状況の中、当社が保有する株式も堅調に推移いたしました。



補足説明資料⑨

5. 準天頂衛星「みちびき」を活用した取り組み状況は？

準天頂衛星「みちびき」を利用することにより、高度な位置情報利用の実現を目指した研究開発を進めております。

当社が主幹となり、一般財団法人衛星測位利用推進センター（SPAC）のご協力を得、準天頂衛星の初号機「みちびき」によるセンチメートル級測位補強信号（LEX信号）を用いた利用実証試験を実施し、各方面から多くの参加を頂きました。

さらには、ソフトバンクテレコム株式会社および一般財団法人衛星測位利用推進センターによる種子島ランドマーク実証実験における観測・精度評価の支援を行うとともに、当実証実験から得られたデジタル地図と高精度な衛星測位情報のずれに関する課題の解決に向けた研究が当社に課せられた使命と受け止め、各公的な会議等で、「衛星測位と地図の法規的な位置の整合」問題を指摘するとともに、解決に向けた提言を行っております。

また、高精度三次元計測車両MMSにより得られる座標点群データを利用し、車線情報等を含む高精度数値化モデルによる道路情報を生成することができ、従来のナビゲーション等では不可能であった、車線認識ナビゲーションの他、逆走防止、アップダウン道路情報からのエコ走行支援及びカーブ情報からの走行支援機能等への実現に向けた研究開発を進めており、当研究は平成25年度新あいち創造研究開発補助金を受け、名古屋大学と共同で、ITS業界での利用を目指しております。この他にも本分野では、当社が長年培ってきた高精度に位置情報を求める技術がその発展に寄与するものと考え、測地・測量テクノロジーの幅広い分野への利用活動も行っております。



補足説明資料⑩

6. 医療関係及び手書き文字認識技術に係る事業の状況はどうか？

医療関係事業においては、これまでにご導入頂きましたお客様から、実務によるご利用を通じた様々な意見を製品に反映し、日本医師会開発のレセプトソフトであるORCAのサポート認定店を通じた販売活動を継続しております。その結果、これまでに導入した診療所等に追加のご注文もいただいております、一定の評価を得ているものと判断しております。

また、地域医療ネットワークの分野で、手書きの医療文書ツール、医療文書における電子署名技術提供など電子カルテに関連するシステムをセットにしたソリューションの提案を継続的に実施するとともに、中部テレコミュニケーション株式会社と共同で訪問介護における文書の電子化を推進する事業もスタートしております。

手書き文字認識技術においては、アンケートシステムでの採用される事例も出てきており、今後も幅広い分野での利用も見込まれています。

7. 「第2回 コネクティッド・カーEXPO」出展の効果は？

本イベントは次世代の自動車技術が一堂（出展社数：410社）に会する、商談の為の展示会となっており、弊社が出展するコネクティッド・カーEXPO以外にも、カーエレクトロニクス技術展、EV・HEV駆動システム技術展、車の軽量化技術展の計4つの展示会が開催されました。

今回の展示では、「ITとクルマが繋がる」時代へ突入し、自動車向けITソリューションサービスが益々拡大していくことから、新たに運転支援・自動走行ゾーンが設置されており、当社はこのゾーンでの出展を行い、安全運転支援、自動走行等の開発・研究にご利用頂けるMMSによる高精度地図作成技術の他、準天頂衛星『みちびき』の補完信号・補強信号に対応した利用実証用ツールを紹介いたしました。

成果としては、開催中主に自動車業界で各種研究に携わられていらっしゃる方々中心に約150名の方と面談し、6件の商談へと繋がりました。引き続き、今回面談いただいた方々へ当社の技術をPRし、継続的な取引を目指します。



補足説明資料⑪

8. 今期の業績見通しに関して

平成26年3月期における業績に関しては、平成26年2月13日に「平成26年3月期業績予想の修正」の開示の通りであります。

公共事業に係る順調な予算執行を基底にWindowsXP終息問題や消費税増税の環境を受けた市場の購買意欲の喚起が続くとともに、それらに向けた販売施策の投入効果から、通期の見通しは視界良好と判断しております。

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	1,900	100	92	70	15.19
今回修正予想(B)	2,100	175	170	140	30.39
増減額(B-A)	200	75	78	70	
増減率(%)	10.5	75.0	84.8	100.0	
(ご参考)前期実績 (平成25年3月期)	1,899	66	58	39	8.56

「平成26年3月期業績予想の修正」より抜粋



補足説明資料⑫

9. 中期的な展開に関して

平成25年6月26日に開示しました中期経営計画でもご説明の通り、「2018年4月に実用準天頂衛星が24時間運用体制となる時代を見据えた新次元の「新・深・真」なる測地系測量システム開発に邁進する。」を経営基本戦略とし、事業活動を進めてまいります。

全般的には、東日本大震災からの復旧・復興事業に加え、2020年に開催決定しました東京オリンピックに向け、様々なインフラ整備が今後活発に行われるとともに、自動車・ITSの分野では、自動運転、安全運転支援の実用化に向け、各社で積極的な研究開発が進むものと予想されます。また、2018年度に実用準天頂衛星時代を控え、様々な位置情報サービスの提供も期待されます。

このような環境のもと当社では、長年培ってきた「高精度演算、高精度位置情報解析ソフトウェア群」を従来の測量の分野に留まらず、様々な業種、業態へ幅広く提案していくことで事業拡大を目指してまいります。

10. 平成25年6月26日に発表した中期経営計画における当期のコミットの進捗状況は

順調に推移しております。当期のコミットにつきましては、本第3四半期決算短信の開示どおり、通期の見通しは視界良好としております。



本資料に記載された情報や業績予想等の将来見通しは、資料作成現時点において入手可能な情報及び当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されております。今後、経営環境の変化等の事由により実際の業績や結果とは異なる可能性があります。

【本資料及び当社IRに関するお問い合わせ先】

アイサンテクノロジー株式会社 業務統括本部

TEL: (052) 950-7500

お問い合わせURL : <https://www.aisantec.co.jp/contact/>